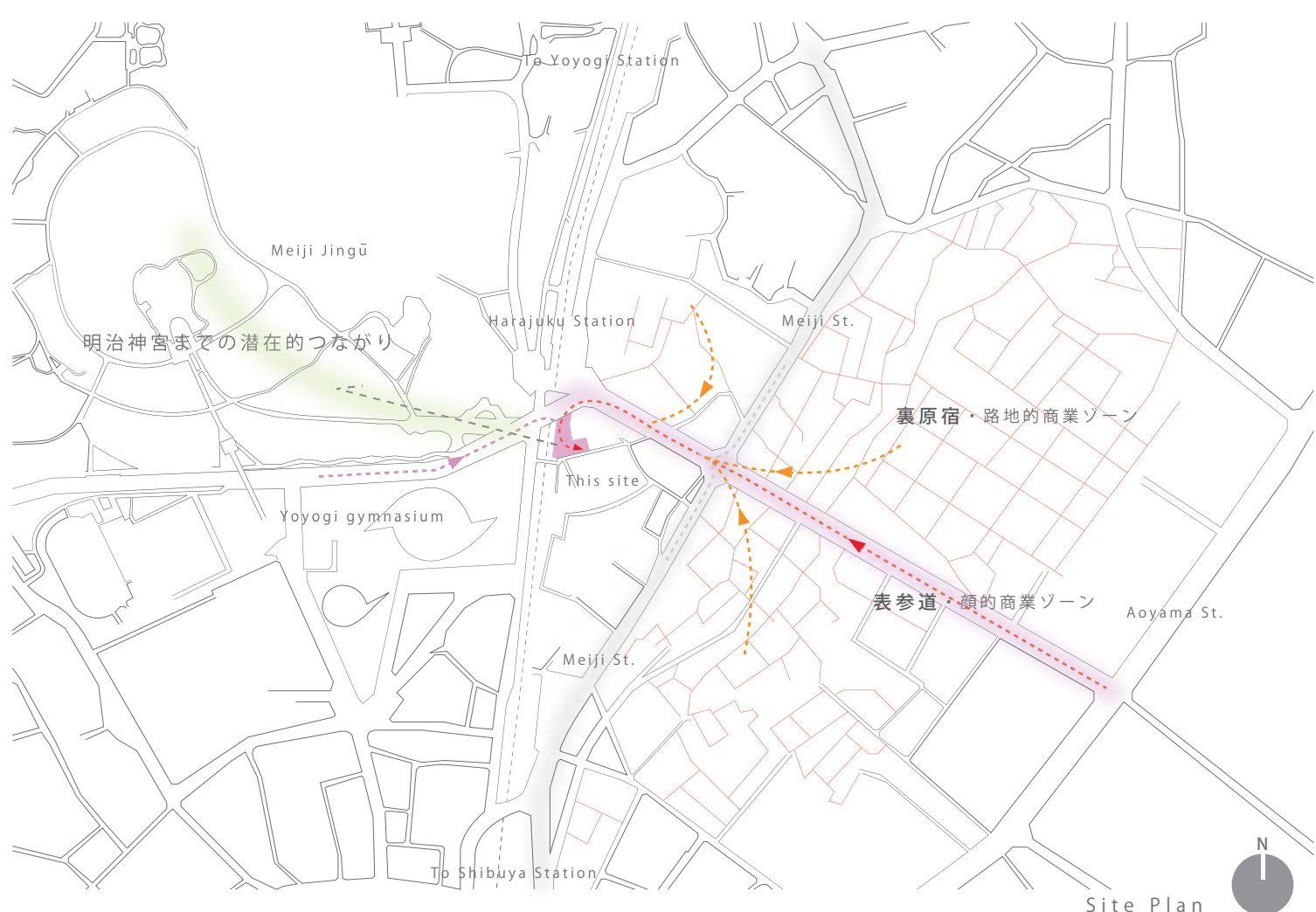
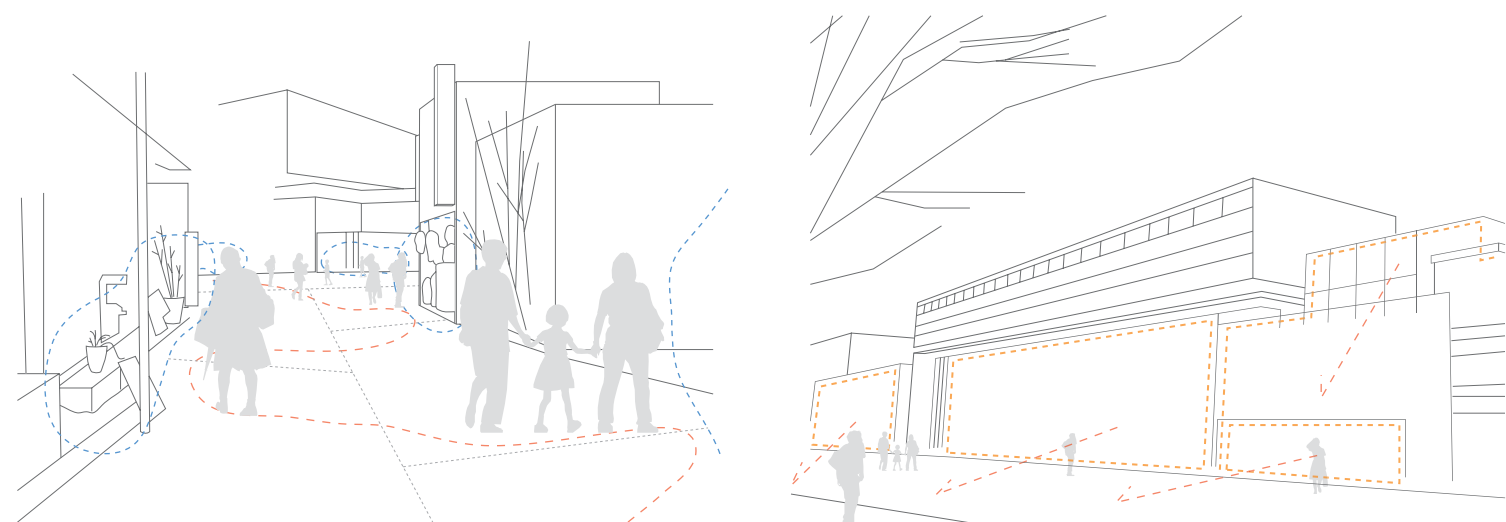


Wind up SCREW / Harajuku - Omotesando

原宿・表参道のねじをまく



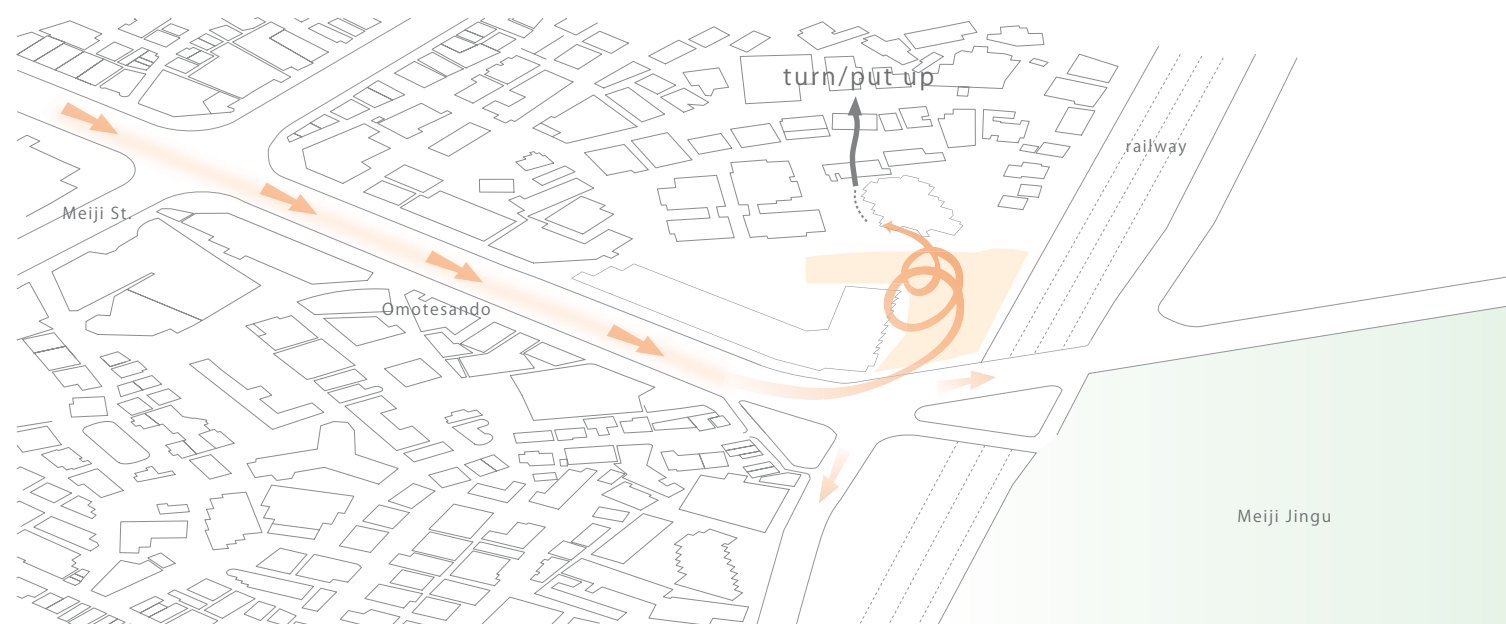
まず、原宿・表参道エリアが抱える路地的側面と顔の側面をあぶりだした。人の流れは主に原宿駅から南東方向に、明治通りを北から南に、または路地をさまよう動きが見られる。青山方面から明治神宮まで登る、旧来の参道の強い動きは歩行経路の多様化とともに薄れているが、それらを取り戻す、または思い出させる意味でもこの建築は働くだろう。



表参道の持つ顔性と受動性 / 幅員も大きく、見通しの良いところに、顔として機能するデザインが整然と並んでいる。所々に路地へのスキマを持つ以外は、人々は表出するイメージに対し受動的である。

消費活動の多様性と人々の流れ、または参道という性質

この土地に商業施設を設定するきっかけとして、表参道・原宿の二つの特徴的な消費活動を取り上げる。この通りを中心に展開される歩行活動のある商業ゾーンをそのまま内部に引き込むことによって、新しい商業の展開を考えたい。また、旧来の参道の特性から、この建築が終着点であり、またそこに目的空間があるような構成によって、環境をそのまま立ち上げることが同時に考案する。

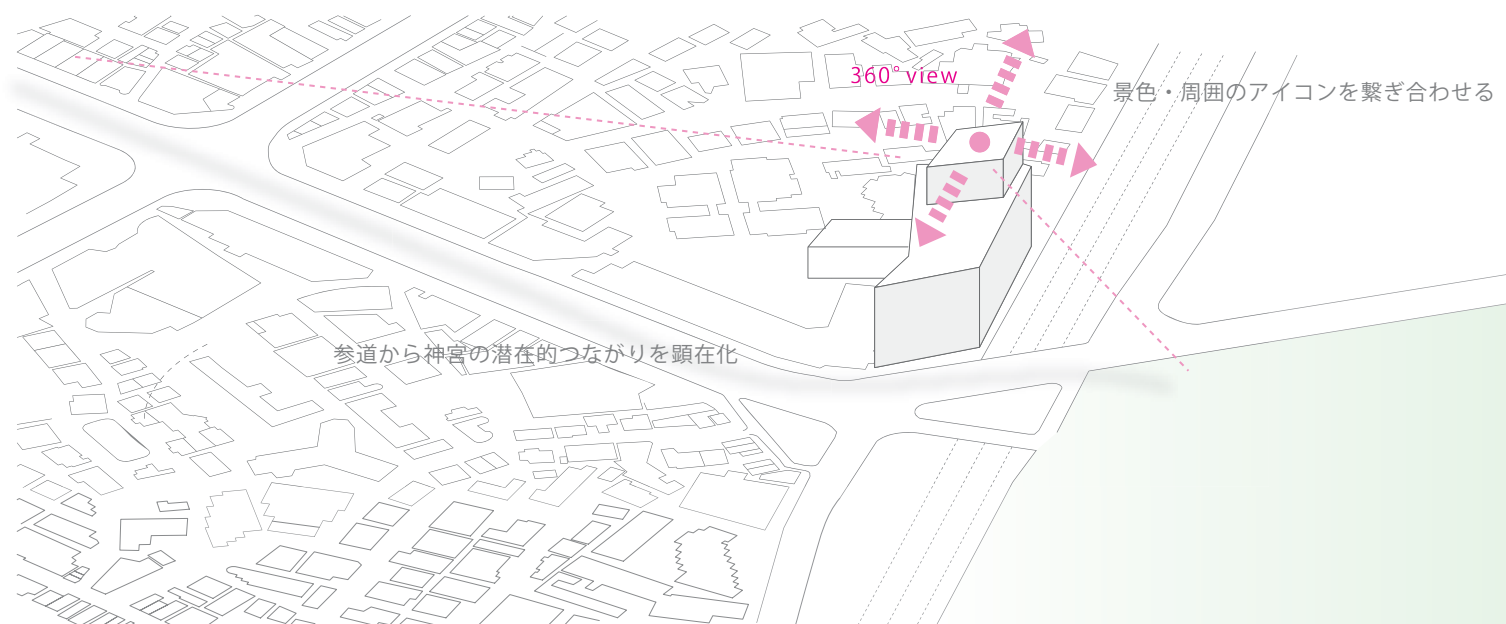


表参道やその周囲の人をこの地に引き込む。/ 表参道の人々の流れを、通りから一続きのスロープによって、ねじを巻くようにからめとり引き込む。引き込む操作がそのままに建築に還元されることで建築の外形が建ち上がる。意図が表裏に異なる建築を作る。



周囲の商業形態を引き込む。/ この中に入る店舗も周囲から一続きになる事を考えた。表の簡的な店舗と裏の小規模店舗が、通りを巡るように配置されている。同時に通常の商業施設の小割りのラインはそのままに展開できるため、多種多様で、そこに行ったらなにかある期待感を生み出すことができる。

引き寄せる・束ねる・まきとる / ネジをまくことが、モノや人を収束させる。



終着点としての展望ゾーン / スロープで巻き上げられた先は、この敷地周辺・東京の主要な面顔を展望できる豊かな空間を設定した。この建築が終着点であるとともに、この景色を繋ぎ合わせることでここが中心であり、土地の地場を作り出す仕掛けになっていることを強調する場所である。



豊かな眺望が与える豊かな価値と、それを得る為のスロープ

スロープの先には、表参道にとっての明治神宮のような到達点が存在する。長く続く起伏の頂点であるこの敷地ではいまままで歩いてきた表参道と明治神宮の関係が再確認でき、同時に周囲には都内では稀有な眺望が得られる。ここでは情報の発信源となり、東京の代表となるアイコンとしての役割を設定することで、内部だけでなく建築それ自体も付加価値となっていく。

かつて、明治神宮の参道として設けられた表参道は、いまや軒並み商業ビルが立ち並び日本有数のストリートである。

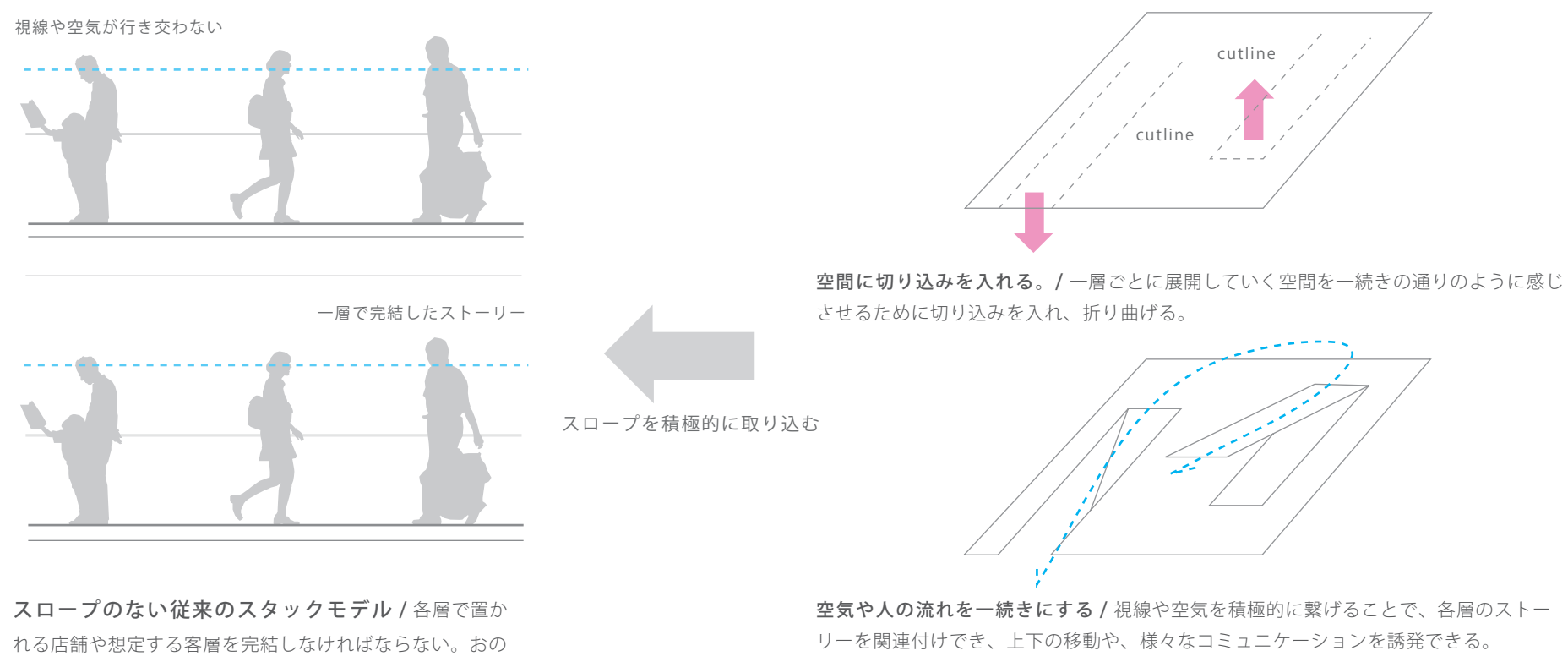
本敷地は、その参道の終着点に程近く、またJRが結節する渦の中心のような場所です。

この場に周辺の性質や磁場、視線、人の動きすべてをまき上げて包含するような起爆剤としての建築を作る事で、

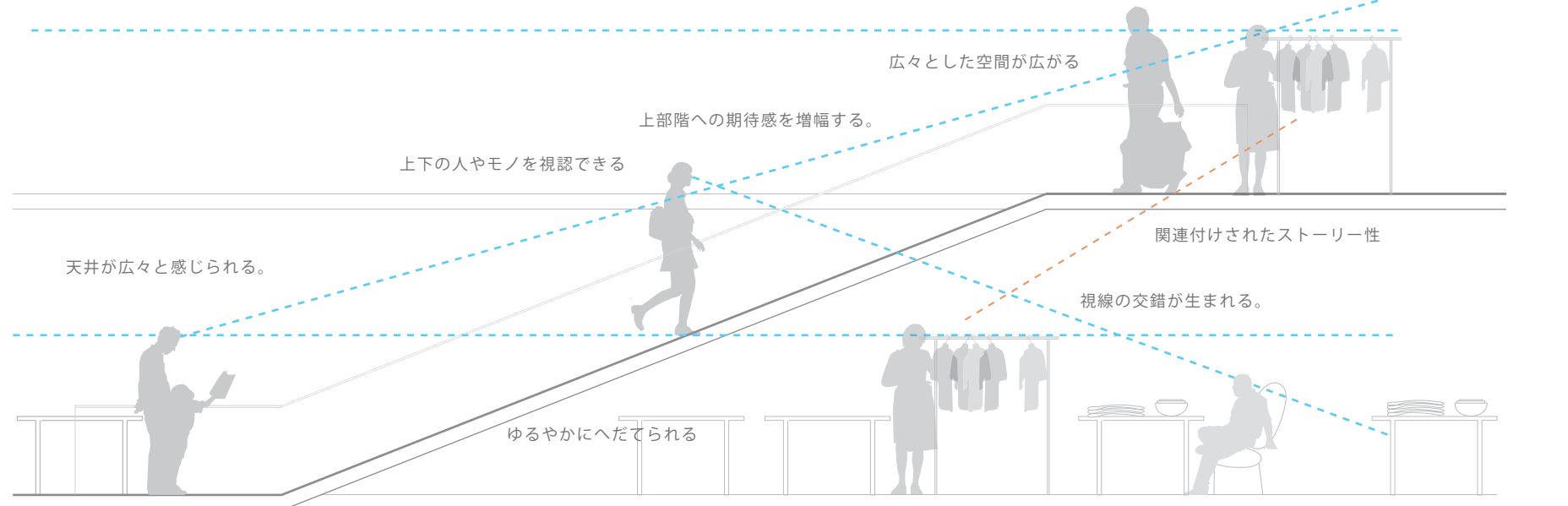
この敷地のポテンシャルを最大限に高めるとともに、消費活動というものに占拠される商業ビルから、アメニティの豊かな、新しい価値を作る建築への転換を提案します。

高さのそれほど無い所でも360°素晴らしい景色を眺めることができるこの場所が、風景をつなぎ、この土地の潜在的な意味を再認識させ、商業以外の意味を持つことで、

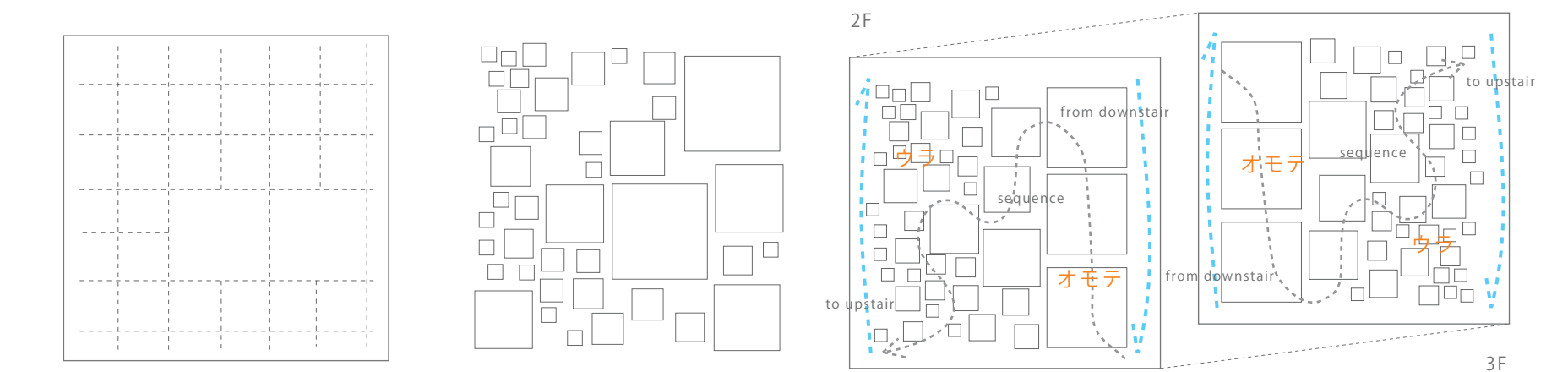
派手なファサードや雑多な広告塔としてだけではなく、吸引力のある、表参道の新しいアイコンとして機能します。



スロープのない従来のスタックモデル / 各層で置かれる店舗や想定する客層を完結しなければならない。おのの繋がりが希薄な旧来のモデルである

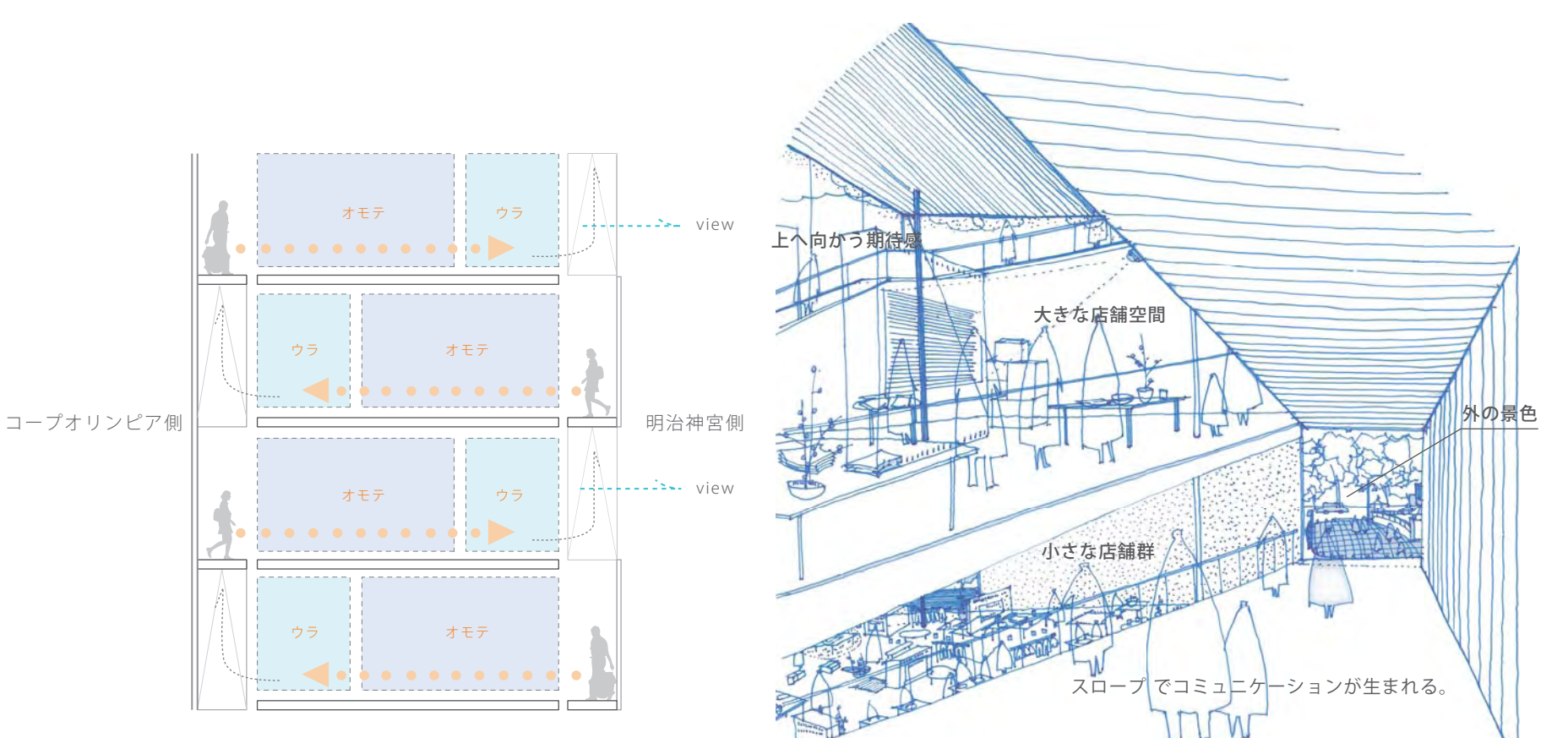


スロープがつくりだす様々な繋がりが関係性 / ゆるやかに繋ぐことで、見える・見えないなどの関係性の程度を新たに設定できることとなる。層で分断する事から解放することで、複雑に混合された多様な店舗群をゾーニングすることを可能にする。モノが混れているが、あるまじりことがある、そんな空間が作れるのではないかと。

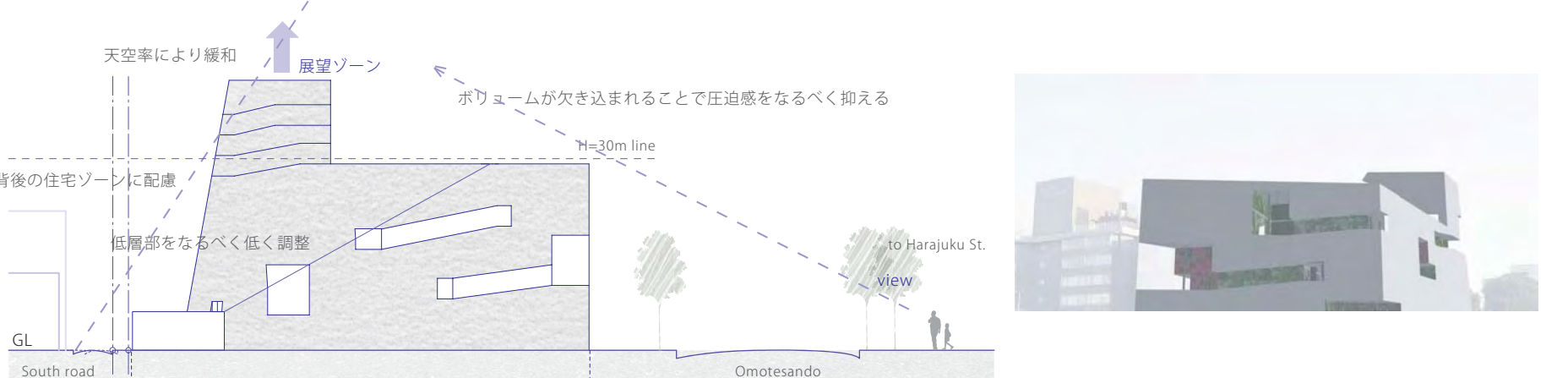


従来の小割り方式 / 中心がメインで周囲がサブといったヒエラルキが由来上から。一旦店舗を無秩序に並べる / 大小さまざまな店舗を再配置するため、さまじりははずす。表裏を再配置し、周囲にスロープをまわす / 動線がひとつづきになり、オモテとウラを順に巡り更に上部へ向かう。また配置は一層ごとに入れ替る。

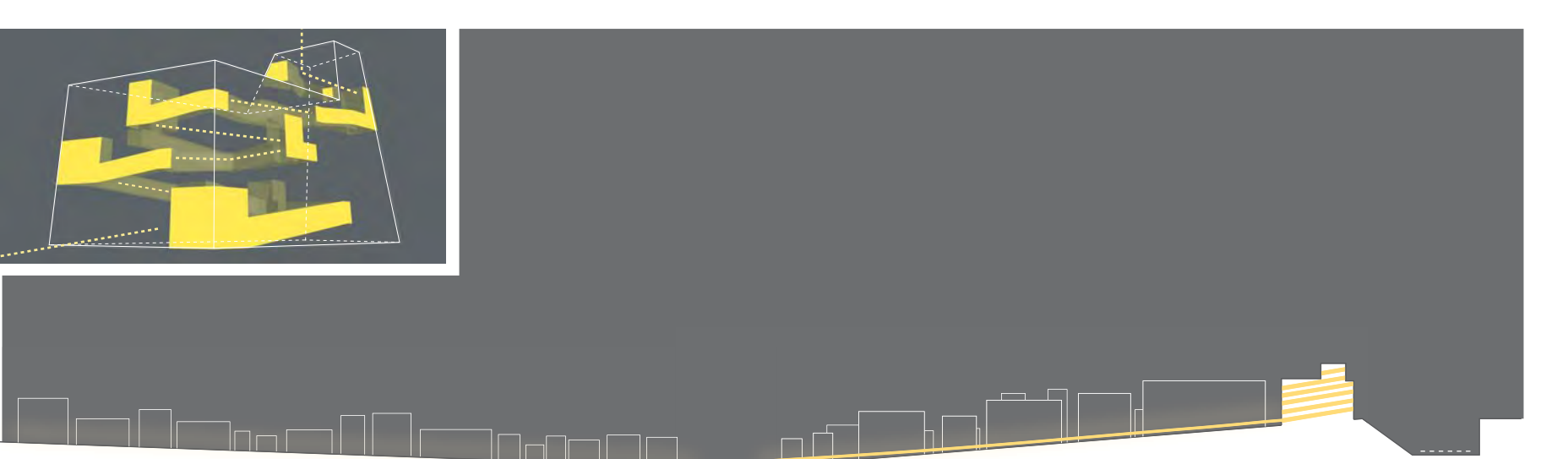
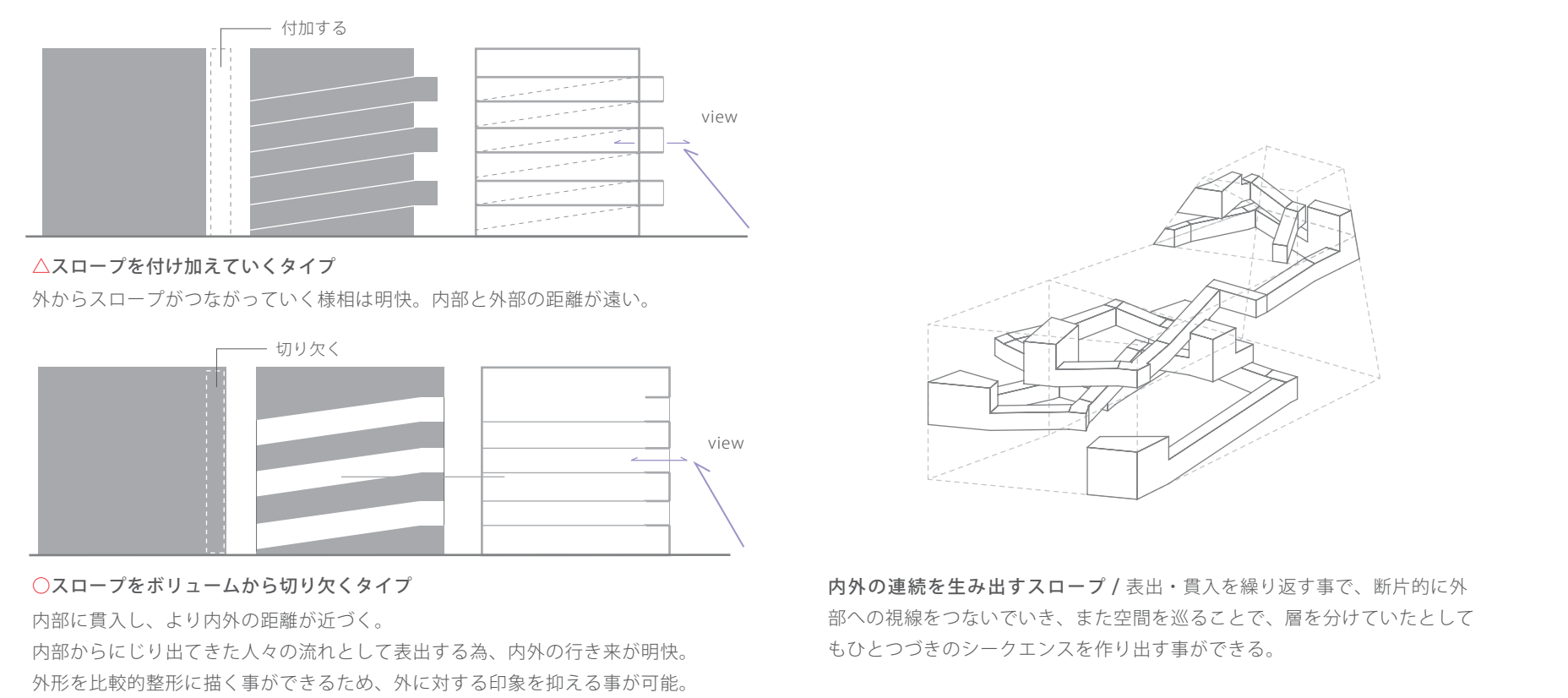
店舗のレイアウトの転換 / オモテとウラの関係がより明確に見え、なおかつシームレスに広がる様、スロープを周囲に配置し、登ってきたら必ずオモテが治うように店舗の配置をする。図のように上下に両方が存在する事で、スロープでは多様な種類のモノを一望できるため、豊かな関係性を導入することができる。



ウラ・オモテ・スロープ・外部景観というレイヤー / 前述のように、店舗の配置を考えることによって、スロープ空間には様々な要素が共存する。スロープは外からの視線の受け手になると同時に、外部への開放も担う為、結節点としての役割を担う事となる。また、スロープでは一旦休憩をしたり、憩いの場としてのアメニティを創出する。



ボリュームのコントロール / 制限の厳しい敷地に対して、肯定的に解釈する事で魅力あるボリュームを生み出した。圧迫感を低減するデザイン / 高層部を通り側からなるべく背後にとり、なるべく展望ゾーンを高層にして豊かなアメニティのある事をアピールするように低層部を工夫した。退することで、なるべく空に開く建築を作り出します。



光の帯がまき取られる様相 / 夜間の表参道のライティングの中でも意図がより明確に見えるように、スロープから漏れる光は周囲の照明も巻き込んで、一体となるような計画を考えた。一日中、すべての要素が刻々とこの空間の中に入り、また周囲に発信するように存在する。

01.

ゆるやかについでいく / へだてていくためのメタファー

表参道からゆるやかに引き込む為にわかりやすいメタファーとしてスロープでつなぐことを考えた。空間を分断するために近代はフラットスラブで層は階段や吹き抜けでつなぐ、といった手法を用いているが、積極的にスロープを利用することでつなぐ・へだてるの相反する事項を両立し、また新しい各層の新しい結節の方法を指し示す。また、明確に周囲の環境を引き込むジェスチャーによって、人々に意図を伝え、また情報を発信する核として、この建築の中心的な役割を担う事となる。

02.

様々な関係性とコミュニケーションを誘発するスロープ

今回のように多様な店舗の種類を持ち込むときに、明確にへだてることなく柔らかく分断する方法としてスロープは寄与する。斜めに空間を駆け巡る事で上下の人やモノは別れつつも繋がるといった関係を作り出す事ができるので、裏原宿的な店舗からあふれる商品や内装、それと相反する、精緻な配置をされた表参道の店舗が同居できるきっかけになる。それらをゆるやかに上っていくこと何一つ不自然のない事のように見せることが可能となる。

03.

参道とその裏の関係性を作り出す店舗の配置

従来の店舗配置は、ひとつの大きなランドウを均等に細分化すること、動線に沿う所には主力のブランドを配置してヒエラルキを与える、といった定石が存在した。本提案では、表も裏も動線に沿い、その順序だけをコントロールする事で、ヒエラルキをつけるといった店舗の配置で、表裏の間に共存する、空間全体を均等の扱える動線計画を提案する。そこではへだたりのない自由で歩行のある消費活動が展開されることを期待する。

04.

外の景色と内部空間が交互に絡み合うこと

スロープを明治神宮の外壁周りに配置し、シークエンスの中に外の景色を断片的に挿入する事を考える。通りを歩くときに得られる周りの景色を、自然に内部に引き込む事で店舗から出てまた通りへ、通りから新しい店舗へ、といった連続感をこの建築に取り入れた。また、徐々に上部へ昇り、景観が開けてくる期待感を演出する事で、この先待ち受ける展望フロアへの期待感を増強させる仕掛けとして機能する。

05.

高度や天空率・外からの意識を上手に利用する

この敷地は二つの地域に股がり、北側は30m制限のかかる高度地域である。また斜線の影響で、建築のアウトラインがある程度想定されてしまう。高度と天空率によって得られる高層部分のボリュームを巧く組み合わせる事で不定形なカタチを描き出す。特徴ある外形は新しいアイコンを予感させ、また外から見た時の視線が欠け取られたようなボリュームは、圧迫感をなるべく感じさせない工夫として見せることで、制限をポジティブに利用した。

06.

スロープが欠け取られ、内部が表出する。動線が明確に巻き取られていく。

外に表出するスロープを外壁面から欠き取るように見せることで、そこだけが浮かび上がる操作を考えた。ボリュームとして出すのではなく、外から内部に貫入されるように見せることで、引き込まれる様相をそのままカタチにする。また内部と外部の距離が近い事は、一層それに寄与することと意図した。

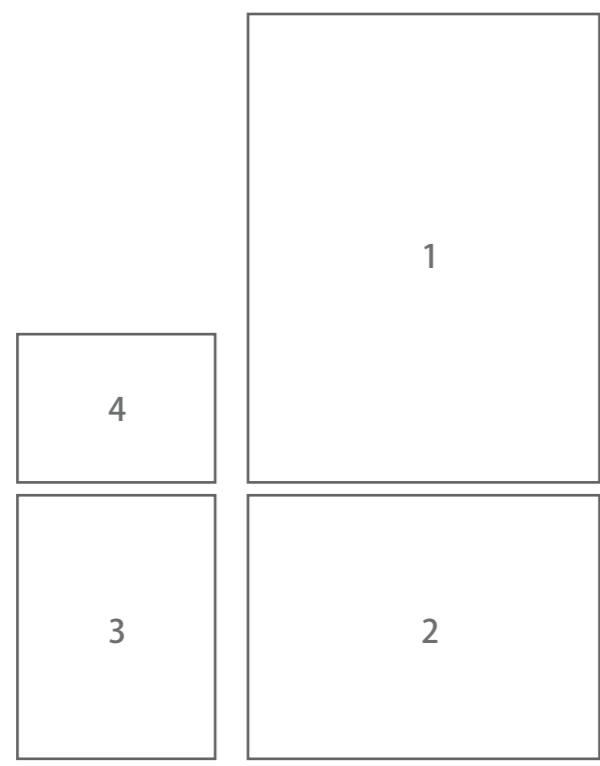
07.

内部への期待感を生み出す魅力あるキューブ

以上の操作が外部を積極的に引き込むジェスチャーだとしたら、外からの視線はおそらく内部空間を断片的に捕え、人の動きは明確に視認できる。派手な広告ファサードや透明性のあるファサードでは得られない特別な期待感を生み出す事ができる。この土地の魅力そのままと引き込んだファサードが注目を集める、そんな魅力を持った新しいキューブとして、原宿・表参道のポテンシャルを高めるとともに、この建築そのものの価値も上げることができる。

Wind up SCREW / Harajuku - Omotesando
原宿・表参道のねじをまく

p e r s p e c t i v e

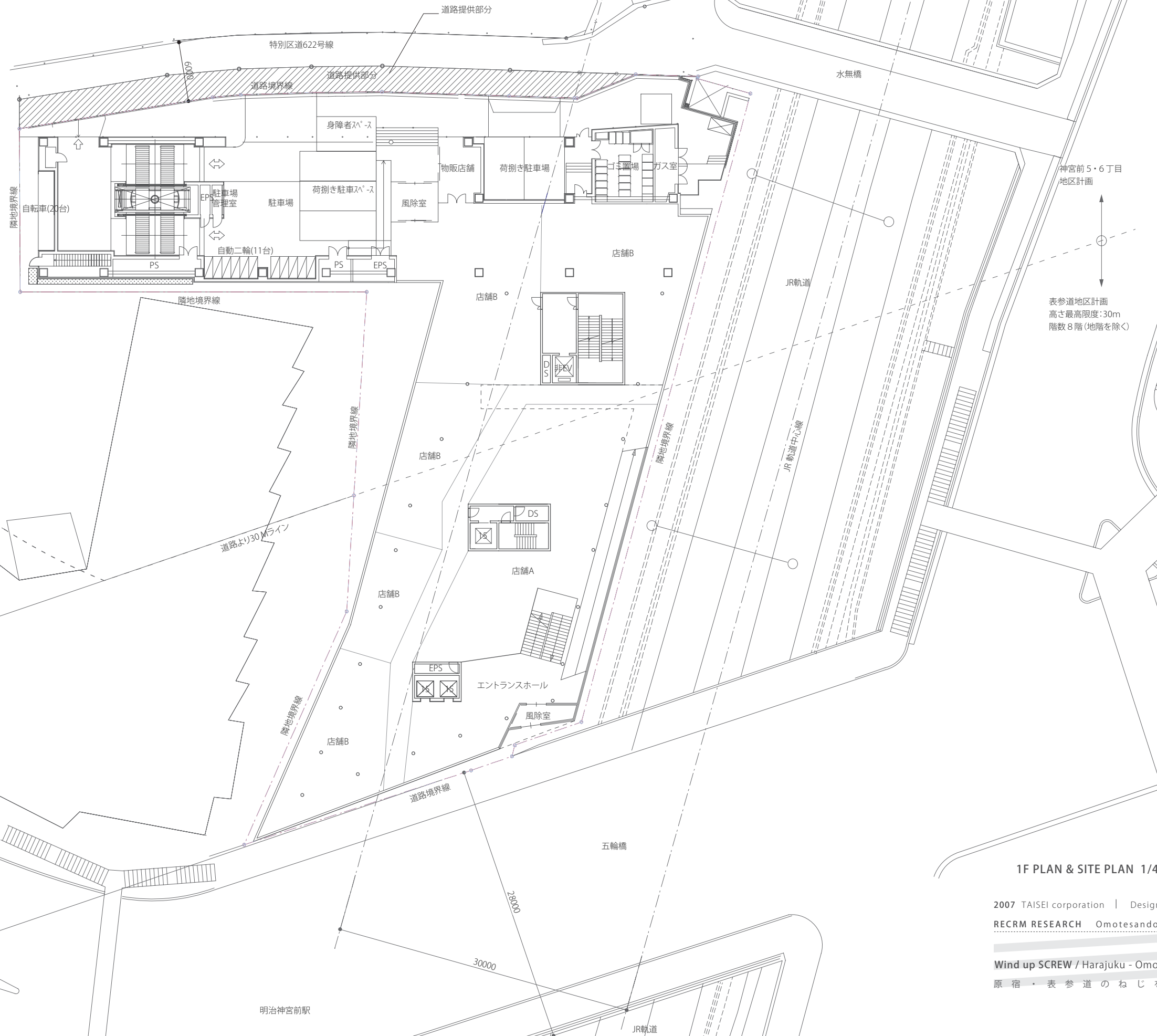


1. 表参道からのアプローチ
2. 参道を上りきった所からのビュー
3. 対岸の水無橋からのビュー
4. コープオリンピアによって
頭上切り取られた姿だけが見える。

動きや向きによって、ボリュームのアウトラインの変化する、
けって認識される形が、ひとつではない魅力的なキューブ。
引き込まれて向かう表参道の頂上からは
360° 東京の主要なアイコンが、見て取れます。
とても豊かな空間と、豊かな眺望が待っている、
この地に今までなかった建築が現れます。



建築面積 2261.5㎡
建蔽率 79.1% < 81.1%
容積対象床面積



1F PLAN & SITE PLAN 1/400

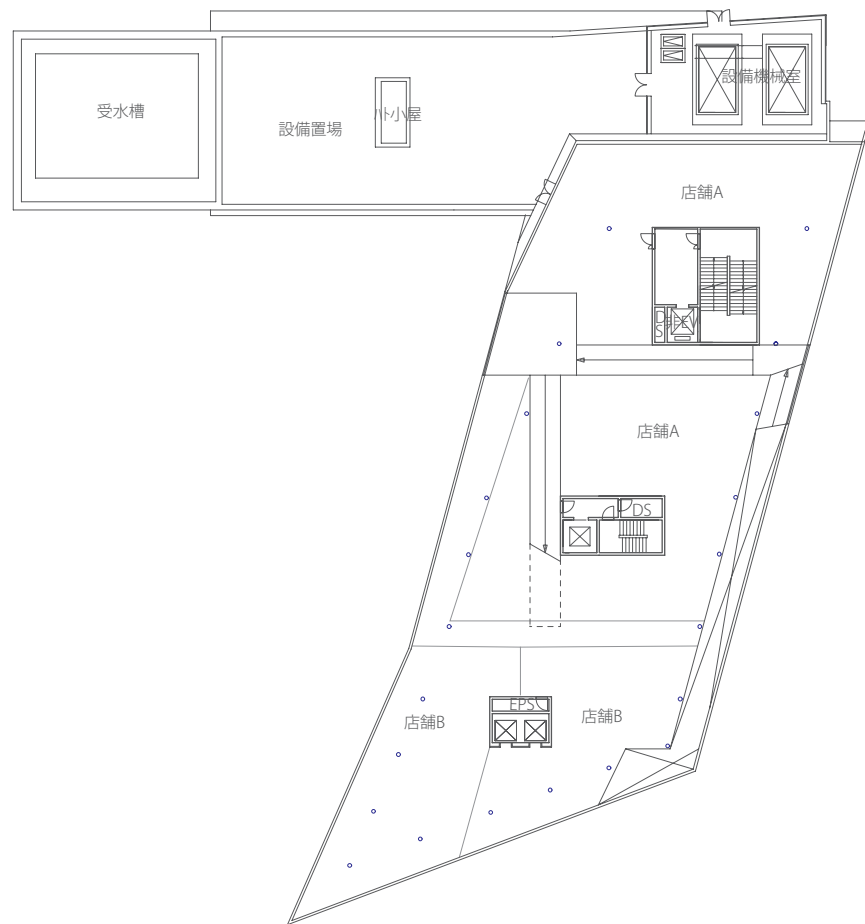
2007 TAISEI corporation | Design training
RECRM RESEARCH Omotesando Project

Wind up SCREW / Harajuku - Omotesando
原宿・表参道のねじをまく

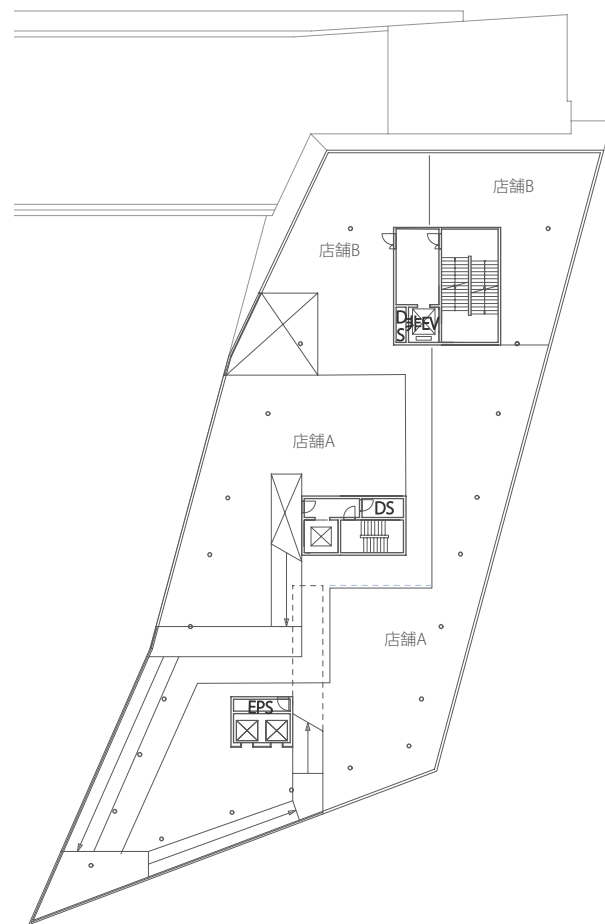
都道413号赤坂・杉並線

明治神宮前駅

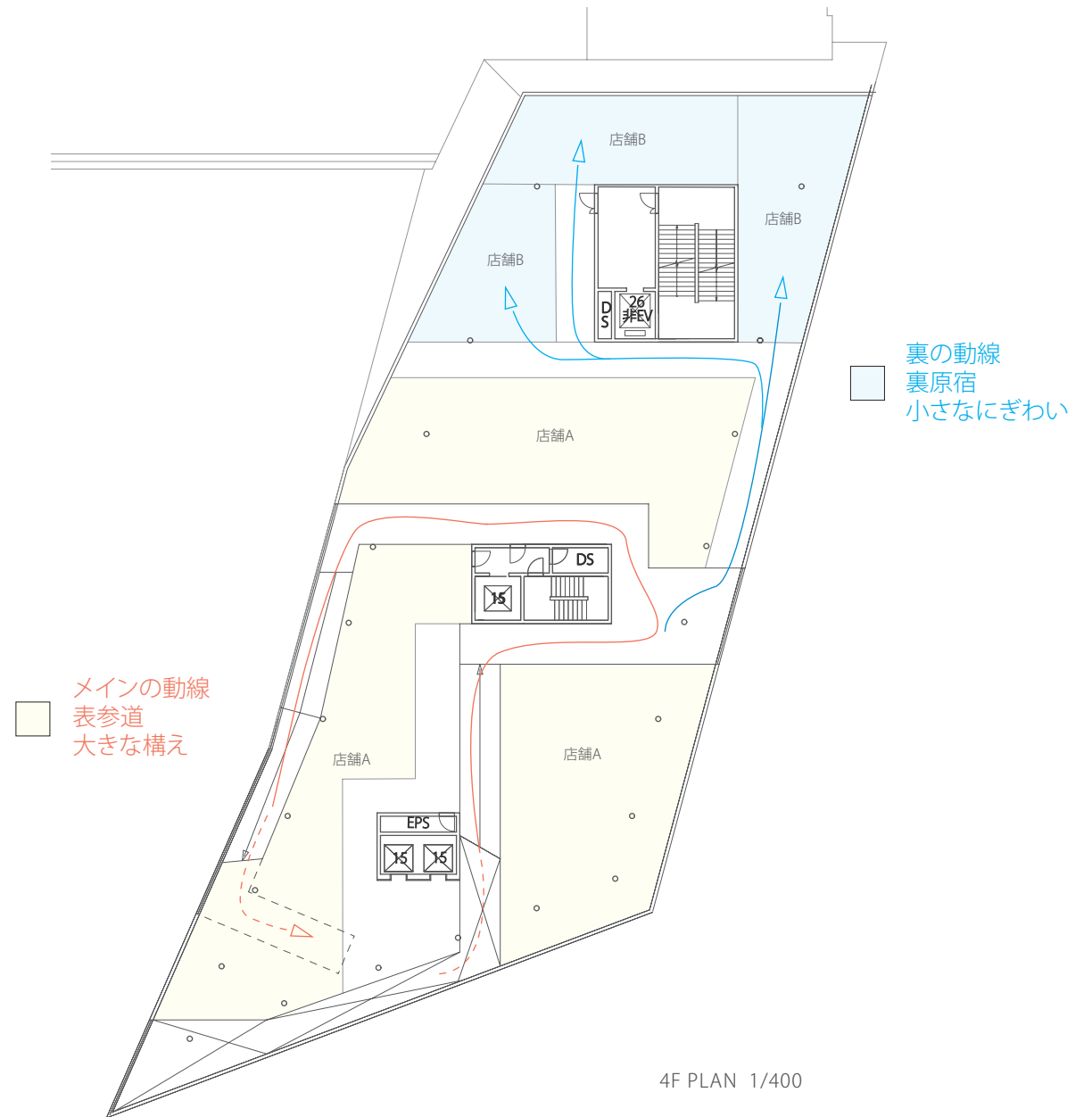
JR軌道



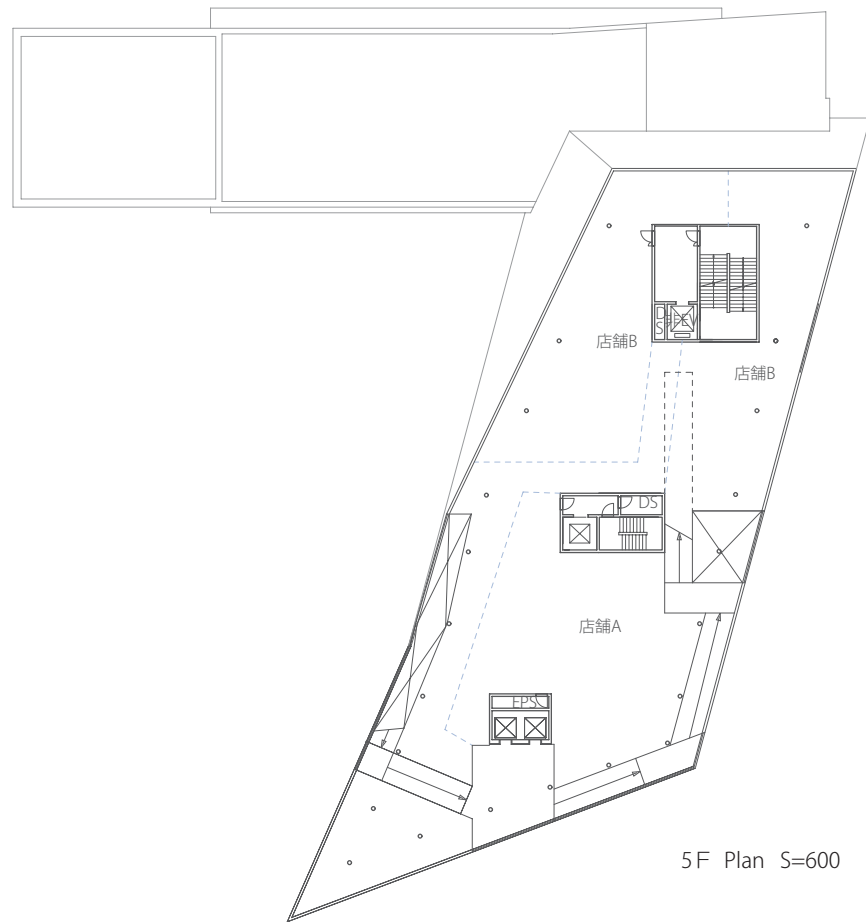
2F PLAN S=1/600



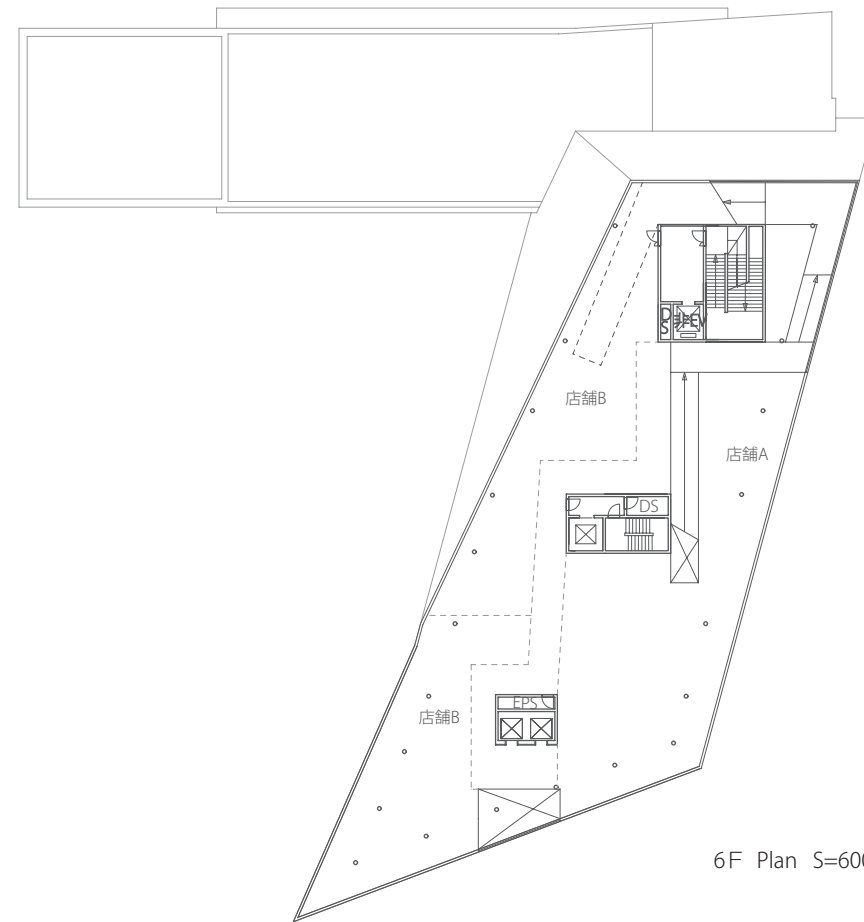
3F PLAN S=1/600



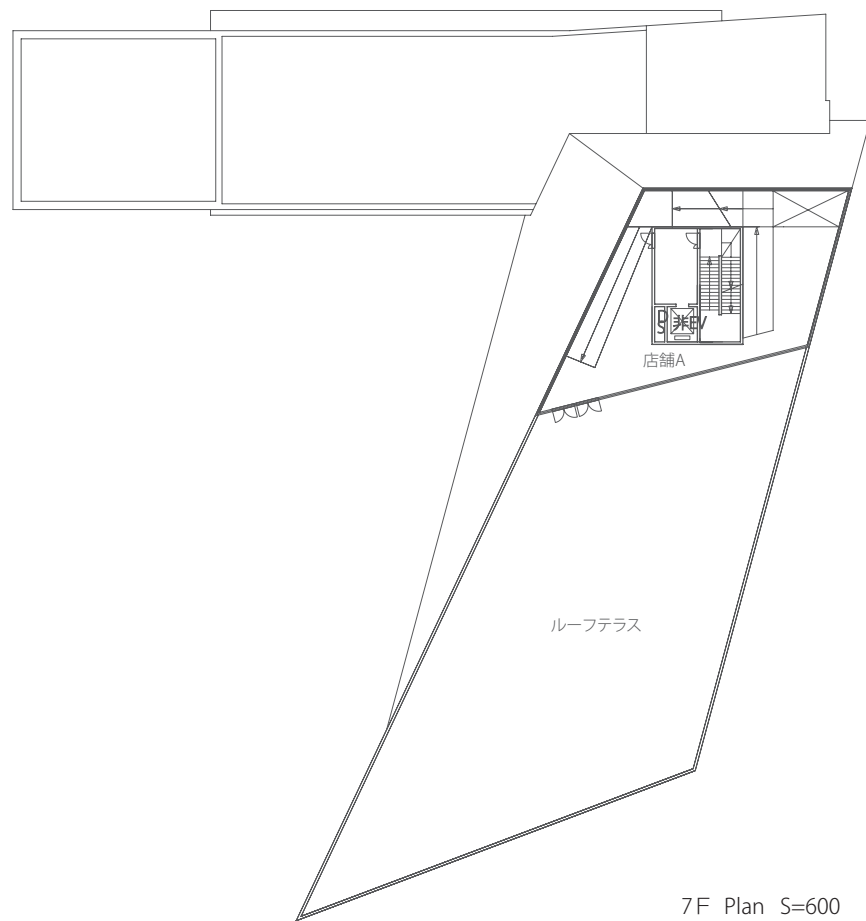
4F PLAN 1/400



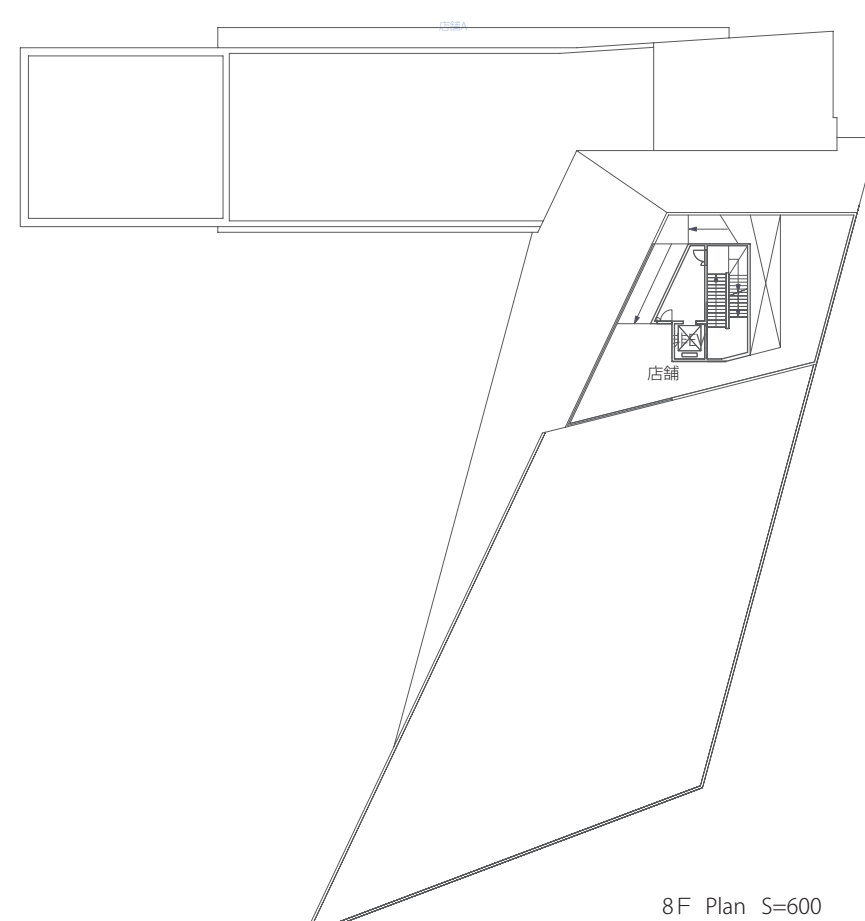
5F Plan S=600



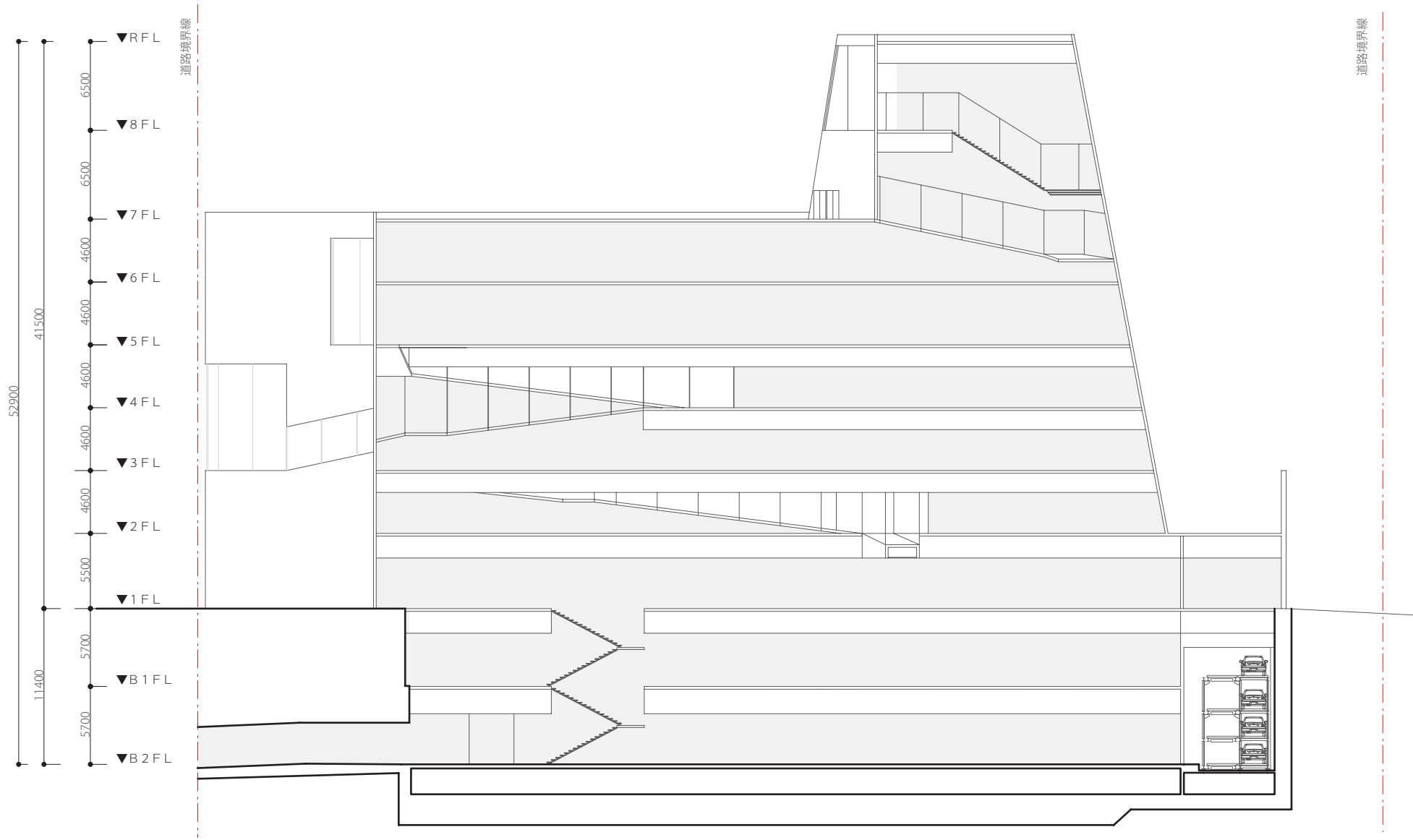
6F Plan S=600



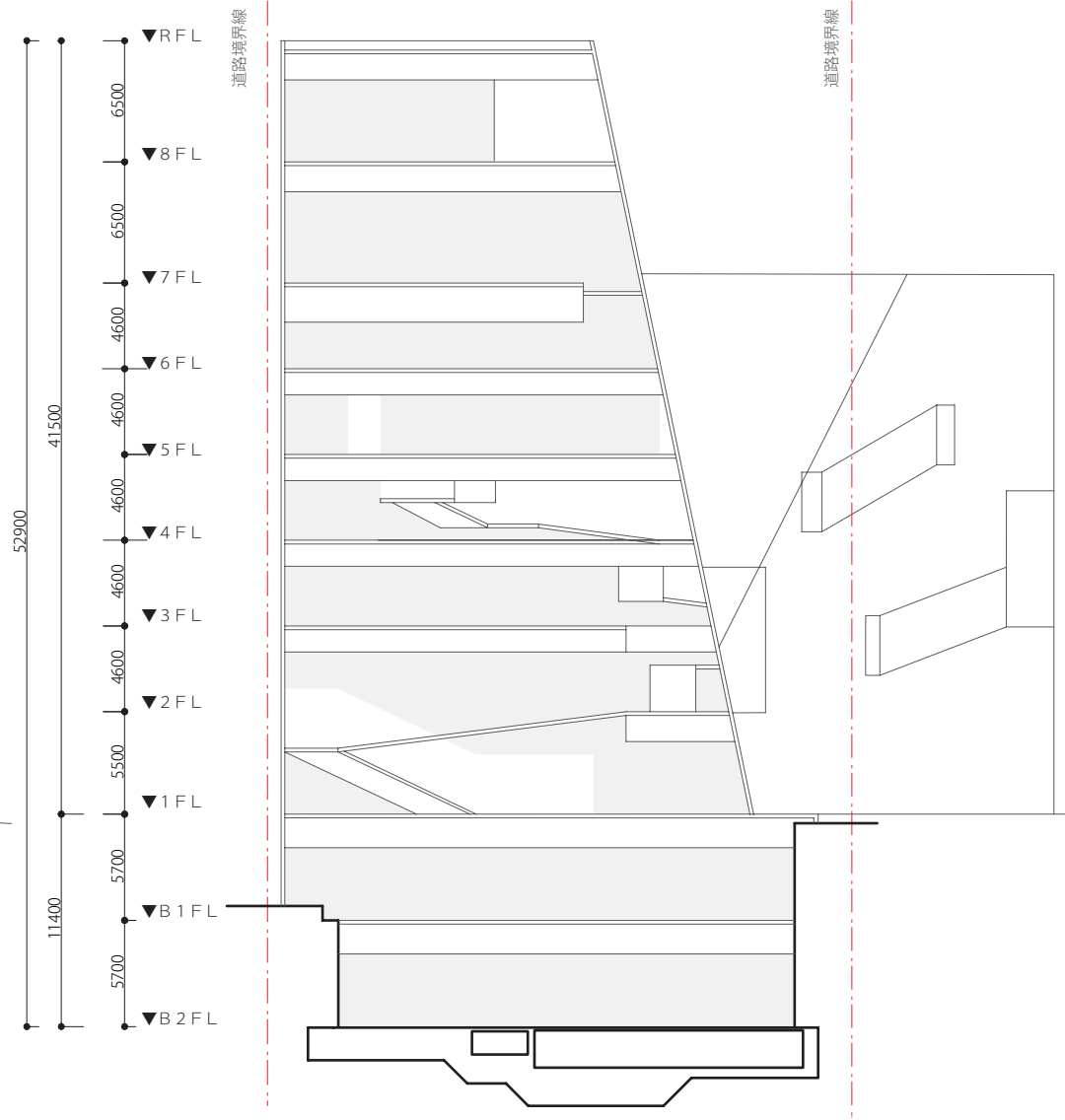
7F Plan S=600



8F Plan S=600



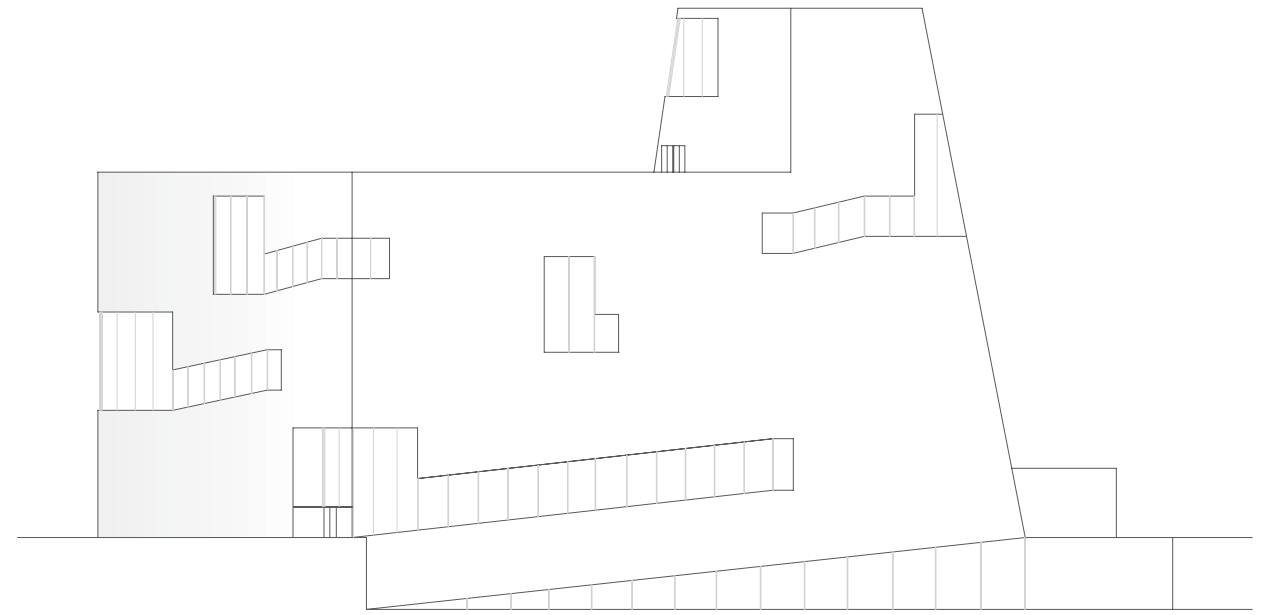
LONG SECTION S=1/400



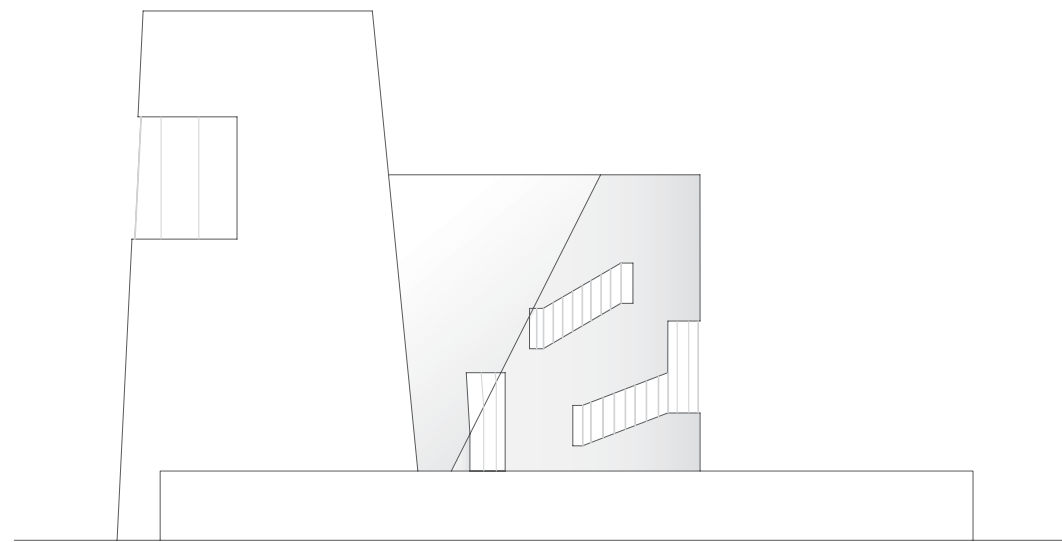
SHORT SECTION 1/400



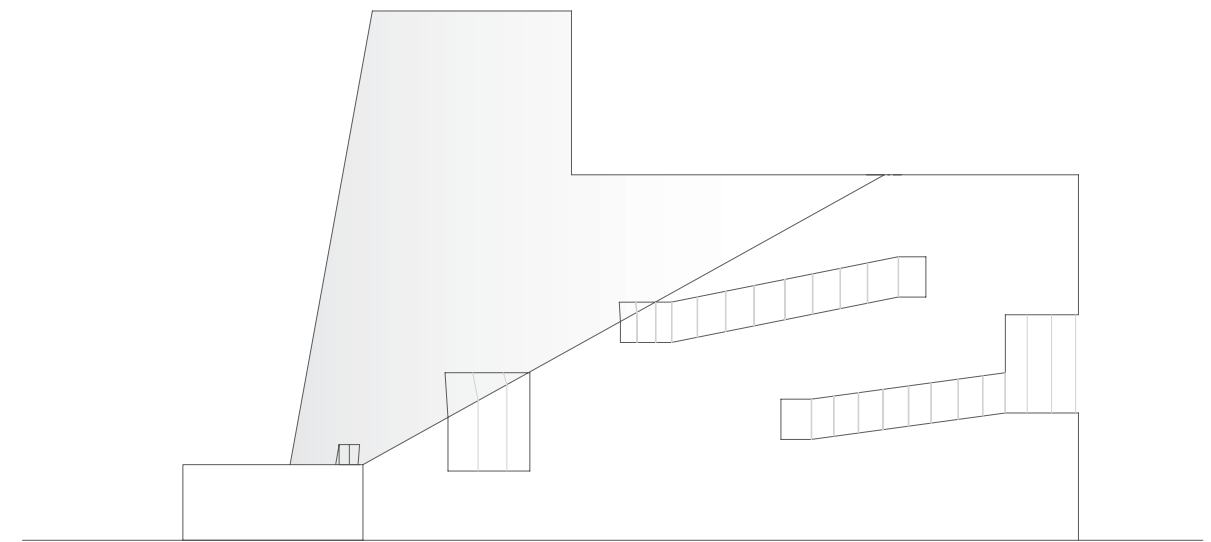
NORTH ELEVATION S=1/600



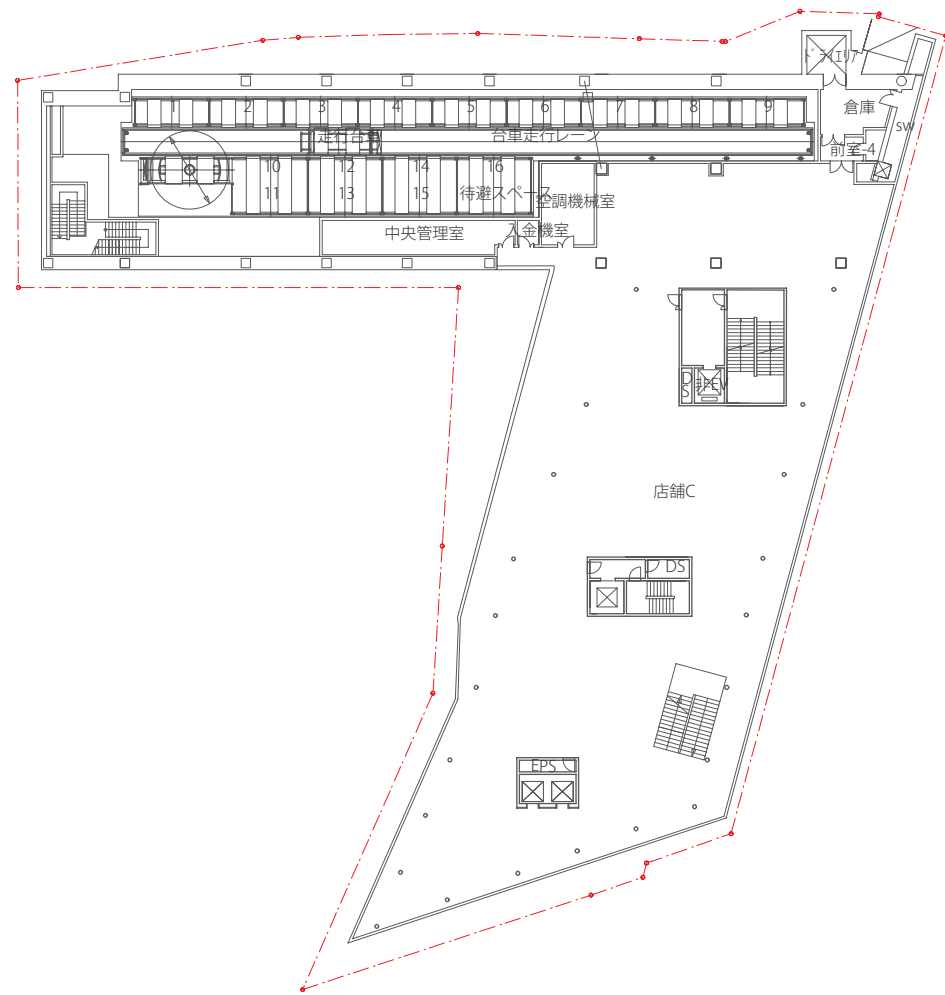
WEST ELEVATION 1/600



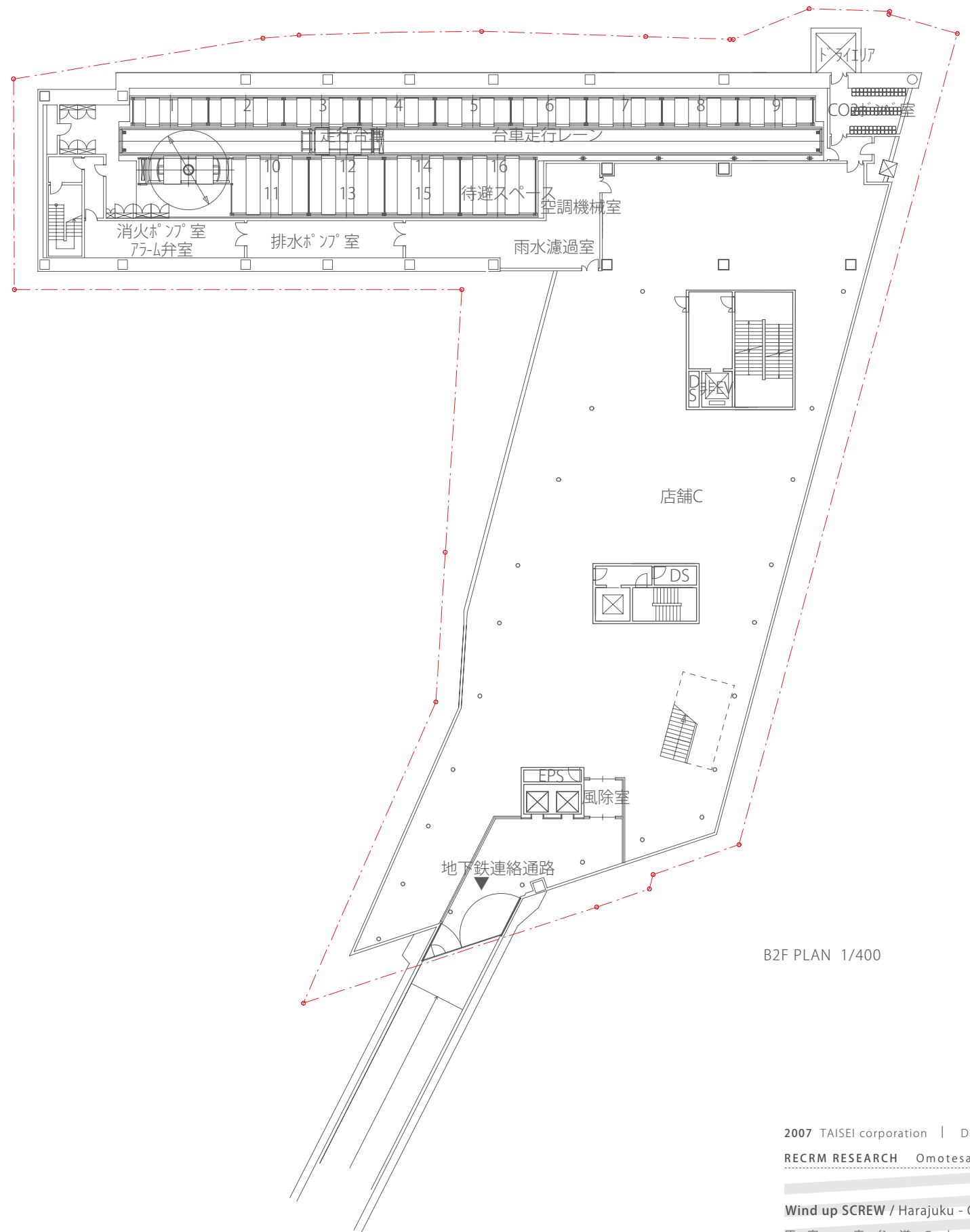
SOUTH ELEVATION S=1/600



EAST ELEVATION 1/600



B1F PLAN S=1/600



B2F PLAN 1/400